



令和8年9月16日(水) 名古屋市理科教育研究会 事務局 広報係

「夏季研修会」が開かれました！

8月4日(火)、旗屋小学校において、令和8年度名古屋市理科教育研究会の夏季研修会が開催されました。

全体会では、佐藤先生(港北中)、石野先生(なごや小)、渡邊先生(なごや小)、澤田先生(船方小)の4名の先生方に、実践の発表を行っていただきました。その後、義務教育課指導主事森順仁先生から4名の実践についてご指導・ご講評をいただきました。



佐藤友哉先生(港北中学校)

「学習前の考えを問い直す理科学習の構造
～自己調整学習につながる学びの始まりに着目して～」

「章を貫く課題」を提示し、初期の考えの記述と他者との交流を通して考えを問い直す学習を実践が見られた。生徒は自分自身の課題を見だし学習計画を立てることで、主体的・自己調整的に学ぶことができていた。



石野幹先生(なごや小学校)

「夢中になって追究し、自律して学び続ける児童の育成～児童の「したい!」を大切に、『学びの知図』で振り返る活動を通して～」

生活に結び付く問題設定と「学びの知図」による振り返りを通して、児童が理科を自分事として捉え、夢中に追究しながら自律的に学び続ける児童を育成した実践が見られた。



渡邊佑真先生(なごや小学校)

「科学的に考えながら自ら学びを進める児童の育成」

問題解決シートと「学びの知図」を活用し、実証性・再現性・客観性を意識した学習を通して、科学的に考えながら自ら学びを進める児童の育成を目指した実践が見られた。



澤田智先生(船方小学校)

「仲間と共にひたむきに観察・実験に取り組む子どもの育成」

挑戦から始まる学びを意識した教材提示と「学びログ」による振り返り活動を通して、仲間と学び合いながら主体的に観察・実験へ取り組む児童の育成を目指した実践が見られた。



森順仁先生より（義務教育課指導主事）

「ナゴヤ学びのコンパス」が目指す子ども中心の学びの実現に向け、一人一人に応じた学習過程の充実や資質・能力の育成の重要性について講話がありました。また、「主体的・対話的で深い学び」のさらなる充実を図り、子どもたちとともに新しい教育を創造していくことの大切さが示されました。

それぞれの分科会では、ナゴヤ学びのコンパスでも中心的に取り組むべきテーマを基に、様々な提案をしていただきました。多くの方からの質疑や、それに答える提案者の考え、また、司会者や助言者による助言などにより、提案者も参加者も新たに学ぶことが多く、実りの多い会となりました。

区分	提案者	研究テーマ
第1分科会	湊 大輝 先生 （船方小）	学び続ける力を育てる理科学習 ～「概念地図の活用」×「探究活動の充実」で育む夢中になって探究できる児童～
	永治 友希 先生 （富士中）	科学史で探究する理科学習 －生徒が問いを更新し続ける授業づくり－
第2分科会	田中 裕明 先生 （なごや小）	学びを自分の生活に生かす子どもの育成 －見通しをもった問題解決を重視して－
	布目大貴 先生 （鳴子小）	自分の課題を探究する理科学習
第3分科会	山下 菜月 先生 （鳴海東部小）	自分流サイエンス ～児童が主体的に取り組める問題解決学習を目指して～
	飯田 望夢 先生 （船方小）	生活と結び付けながら主体的・協働的に学ぶ児童の育成
第4分科会	和久井 愛 先生 （東山小）	見通しをもって観察・実験に取り組む児童の育成
	神谷 健太 先生 （山吹小）	問いをもち、仲間と共に学びを深める児童の育成 ～問いエンスマップと「?トーク」を活用した協働×探究の実践を通して～

